

神奈川県議会議員

港北区

# 武田 翔

2016  
夏特別号



[発行元] 武田翔政務活動事務所 〒222-0011 横浜市港北区菊名1-6-11 平田ビル3階  
TEL 045-947-2712 / FAX 045-947-2713

## 【津久井やまゆり園で発生した殺傷事件について】

七月二十六日早朝、県の指定管理施設である県立津久井やまゆり園に元職員と見られる男が侵入し、多数の利用者を殺傷するという大変痛ましい事件が発生しました。犠牲になられた方々をはじめ、ご家族及び関係の皆様には、心より哀悼の意を申し上げますとともに、負傷された方の一日も早いご回復をお祈り申し上げます。

## 【県議会第二回定例会が閉会】

さる六月二十一日、県議会第二回定例会が閉会、二十三日の議案可決と三件の人事案件が同意される運びとなりました。自民党神奈川県議団の一員として、私も是々非々の精神で県政を力強く前進させて参ります。

## 【参議院議員選挙三原じゅん子議員が当選】

議会閉会の翌日からは、参議院議員選挙が始まり、七月十日の投票日には、自民党公認三原じゅん子議員が多くの皆様から神奈川県代表としてご推挙をいただきました。心より感謝申し上げます。

## 【二年目の抱負、そして新たな決意】

昨年度は、厚生常任委員会に所属し、団塊の世代が後期高齢者になる「二〇二五年問題」、県内病院の医師・看護師の数、ベッド床数などの体制について議論を深めました。

また、二俣川のかながわ県立がんセンターに並設された体の負担が少ないがんの最先端治療施設である重粒子線治療が県民の皆様の健康を守るために幅広く活用できるように努力を重ねてきました。

平成二十八年度は、環境農政委員会に所属しました。農業・漁業・畜産業、かながわ水源環境の保全・再生、地球温暖化、ゴミ処理など人間に欠かせない基本的な「食」や「生活」に関係した委員会です。引き続き、皆様の「ご期待」に応えるべく精進して参ります。

## プロフィール

1981年12月神奈川県生まれ  
横浜市港北区富士塚在住  
家族構成：妻・長男

茅ヶ崎市立松浪小学校  
福岡市立百道中学校  
福岡大学附属大濠高等学校  
カリフォルニア州立大学 卒業

2007年  
参議院議員佐藤正久事務所秘書

2015年4月  
神奈川県議会議員当選

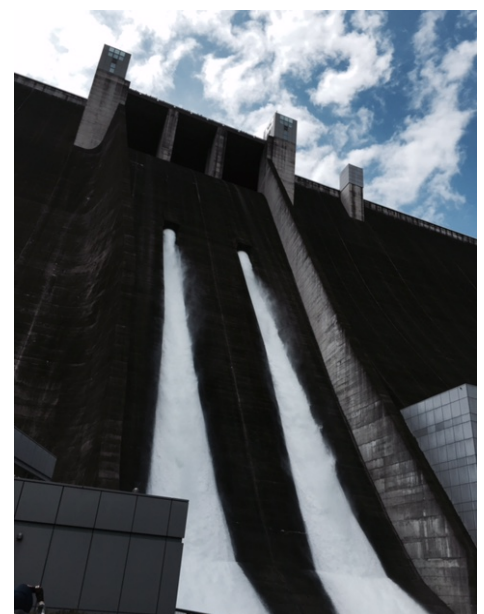
## 【宮ヶ瀬ダム視察メモ】

先日、宮ヶ瀬ダムに行って参りました。2000年に宮ヶ瀬ダムが完成したことにより、県民が将来にわたり必要とする「量」の整備は完了しました。先人たちの労苦が偲ばれます。

ダムの高さは156m、総貯水量は約2億立方メートルで、日本でも最大級の規模を誇ります。総事業費も最大級の約4000億円です。ダム湖周辺道路には、工事のときにダンプカーが通れるように、たくさんの頑丈な橋がかかっていることにも驚きました。

ダムの岩肌が見え、水量が少ないと思いましたが、貯水率は79%でした。2億立方メートルは想像を超えた水量です。

都市化の進展に伴い、水をめぐる環境は徐々に劣化し、「質」が後退してきました。県は県全体に豊かな水を安定して供給できるよう水源環境保全・再生にも力を注いでいます。



終戦の日を前に、命の尊さ、平和の大切さを学ぶべく、自民党神奈川県議団 1 期生で沖縄へ視察に行きました。一部報告させていただきます。

### 平和祈念公園



国立沖縄戦没者墓苑にて納骨堂に納められた軍民合わせて約 18 万余柱の御霊に対し、黙祷を捧げました。改めて、平

和と命の尊さを確認し、沖縄に次ぐ基地負担を強いられている神奈川県として、どのように基地と共存していくのかを考えさせられました。

納骨堂は、琉球王家の墓を模した古来の技法で積み上げられ、形がコの字となっており、祖国の平和の礎となられた同法を温かく抱擁していることを意味していることを知りました。墓苑の東屋が老朽化・改築準備のため解体撤去されており、それが更に、侘しさを助長している感じが致しました。

### 摩文仁（まぶに）の丘

続いて、摩文仁の丘にある「神奈川の塔」へ。沖縄県糸満市の平和祈念公園にある塔は 1965 年、当時の内山岩太郎知事を会長とする建設委員会が呼び掛け、約 700 万円の募金を集めて建立されました。塔には、神奈川にゆかりのある 1678 人とマリアナ諸島など南方地域の戦没者 3 万 9002 人の計 4 万 680 人が追悼されています。

碑には、真鶴で採石された小松石が使われているが近年台座部分の傷みが目立つようになり、隣接する休憩所も屋根に亀裂が入るなど、老朽化が進んだため、平成 26 年度に県民の皆様から 3000 万円の寄付を頂き、神奈川から石を運んで改修が行われた所であります。本県では募

金を集めるためにリーフレットを作成し配布していますが、本来そうした啓発活動は「寄付」のために行われるべきではなく、全ての県民が沖縄戦で多くの県民が犠牲になった事実を忘れず語り継いでいけるよう、公教育の一環として整備されなければならないと考える次第です。

